

令和7年度

館一探究プロセス

～ 共創する未来、地域から世界へ ～

活動報告書



令和8年3月

茨城県立下館第一高等学校

館一探究プロセス 取組一覧

本県では、各学校が校長のリーダーシップの下、「社会に開かれた教育課程」の充実を図りながら、探究的・協働的な学びとともに、それらを担う学校組織マネジメントの向上にチャレンジすることにより、育てたい生徒像の具現化を図る「県立高校等チャレンジ・プロジェクト」の取り組みを行っています。本校は令和6年度に引き続き、令和7年度重点校として、『館一探究プロセス ～共創する未来、地域から世界へ～』というテーマを掲げ、探究学習の充実を中心に以下の事業に取り組みました。

1. 「総合的な探究の時間」の充実

- ① 基本理念と実施計画
- ② 探究全体発表会

2. 地域連携型探究活動

- ① 地元行政や企業と連携した地域おこし活動イベント等への参画
- ② 地域と連携した探究活動
- ③ 教育機関との連携による探究活動

3. 国際理解教育

- ① 海外希望者研修（オーストラリア・パース）
- ② ベトナム・ハノイ研修（SEKISHO JOB FAIR インターンシップ）
- ③ ブリティッシュヒルズ・イングリッシュセミナー（高校1年次）
- ④ 高校生国際協力開発プログラム（JICA 筑波）
- ⑤ 台湾の高校生との交流
- ⑥ グローバル教育講演会

4. 科学教育

- ① 大学科学体験教室
- ② 自然保護活動
- ③ DX 事業連携探究プログラム

5. キャリア教育

- ① 紫西プレカレッジ
- ② 園児・学童の生活支援・学習支援ボランティア活動

未来を共創しよう

茨城県立下館第一高等学校長 木村 功

プロGRESS (progress) とは「前進」や「進歩」を意味し、「目標に向かって段階が進む」というポジティブなニュアンスが含まれた言葉です。令和7年度から下館一高では『『館一探究プロGRESS』～共創する未来、地域から世界へ』というスローガンを掲げ、茨城県チャレンジプロジェクト重点校として探究活動に注力しています。

大正12年(1923年)茨城県下館商業学校として開校以来、100年を超える歴史を重ねた下館一高は、地域の中心校として多くの才能溢れる生徒が集い、成長し、巣立っています。今年度は附属中からの六カ年一貫教育完成という大きな節目を迎えました。従来から展開している学習活動での学力醸成をベースに、4つの柱となる「探究活動」、「グローバル教育」、「科学教育」、「キャリア教育」さらには文科省指定「DX(デジタルトランスフォーメーション)事業」を付加することで、それぞれの教科学習を有機的に結合させ、確かな学力へランクアップさせるとともに、仲間との協働による課題解決により主体性、自己肯定感、自己有用感を育んでいます。

コロナ禍以降、人流や物流、情報流が活発になり「グローバル教育」はこれまでに増して重要になると考えています。希望参加のオーストラリア研修旅行や台湾など諸国からの高校生来校も増え、海外交流が盛んになってきました。グローバルとは世界的な視点を指しますが、成果報告会で講演していただいた本校同窓生であり外交官として長く勤めていらっしゃる岡田氏の「グローバルとは自国のことを語れること」という言葉が思い出されます。異なる視点である地域と世界ですが、地域や自国のことを学び世界に発信することで両者の繋がりが生まれグローバル化が進んでいく、同様に各自が課題と思うことを究めて発信していくことで社会との繋がりが生まれ豊かな社会創造へと進んでいけることでしょう。

近年のデジタル技術の加速度的な発達には便利なツールとなる反面、世界情勢をも揺るがす脅威にもなり得るものとなりました。グローバリズムよりナショナリズムが強くなってきている感もあります。氾濫した情報に対して真偽や有益無益の判断を「人」が行わなければなりませんし、一旦起こってしまった情報の偏りによる混乱は収拾までとても時間を要するものです。揺れ動く情勢を一気に解決できる施策はないかもしれない。しかしながら状況を紐解いて、課題にフォーカスして、知識をもとに最適解を見出し、説明し同意を得て、協働していくことこそ好転させる最短経路だと信じています。探究活動で得られる経験は将来のモデルケースになるとともに、皆さんの「なぜ学ぶのか」あるいは「学び続ける意味」について答えを与えてくれるはずです。皆さんと共に、未来の平和で豊かな社会を創っていきたく願います。

1. 「総合的な探究の時間」の充実について

① 基本理念と実施計画

ア) 基本理念

以下に示す「基本理念」に基づき、探究学習を計画・実施しました。

令和7年度 下館一高「総合的な探究の時間」基本理念

目的【育てたい生徒像】

- ① 答えなき課題にも論理的な思考で探究を重ね、主体的にチャレンジする生徒
- ② 豊かな表現力・コミュニケーション力を身に付け、他者と協働しながら課題を解決できる生徒
(学校経営計画表より)

目標その1

☆ **社会課題や、一人一人の興味・関心に基づいた課題や問いを設定し、その解決に向けた情報の収集や分析をしながら、主体的に探究活動に取り組むことができる生徒を育成する**

手立て

- ① 本校の探究スタート時に定めていた理念である「生徒の興味・関心に基づいた探究活動」を踏まえ、自分が「面白い・気になる・やってみたい」と思える課題であれば自由に設定できることとします。また、探究の過程で、課題を自由に変更ができることを妨げないこととします。
- ② 一人一課題での探究実施形態にすることが有効と考えます。一人一人が自分の好きな課題に取り組んでもらうことにより、主体的な取り組みが期待できます。

目標その2

☆ **ペア・グループでの対話を通じて進捗状況や困りごとを共有し、相互に疑問を出し合ったり、助言したりできる生徒、また、他者の意見をもとに、各自の考えを再構築したり、新たな問いを発見したりしながら、自らの探究活動を深化させることができる生徒を育成する**

手立て

「対話・協働型」の活動を推進します。

「総合的な探究の時間」の授業では、ペアやグループで「対話」する時間を設けます。それぞれの探究活動(調査・分析・実験等)は、授業時間だけでなく、各自が自分の時間(放課後や休日、ラーケーション等)を利用し、自分のペースで進めていきます。

「対話」型活動は、探究活動の「進捗状況・つまずきや困っている点」を共有し、お互いにアドバイスや質問等をする活動とします。一人一課題であったとしても、孤立して課題探究をするのではなく、互いに質問や助言をシェアすることで、新しい視点からの気づきや、新たな興味・課題の発見にもつながると考えます。

→ さらに探究活動を深めるため、同様のテーマを持つ生徒同士でグループ探究をすることも可とします。**(ただし、最終発表、論文作成等は各自が行います)**

以上の点をふまえ、令和7年度の「総合的な探究の時間」について次のとおり実施します。

1. 高1後期より、ゼミ形式で実施する。(1ゼミ当たり10～15人程度/教員1人)

→ ○多角的な視点からの気づき・新たな課題の発見を促す

○類似した興味・関心を持つ他者との協働を可能にする

※高1前期は、探究基礎[社会課題に対するグループ探究活動を実施予定]

2. 「一人一課題」での実施を原則とする。

→ ○個々の「好き」な探究をすることにより、主体的な探究活動に

(注)ただし、類似した探究テーマを持つ生徒同士でのグループ探究も可とする。

3. 高2生(および付属中3年生)は年度末に全体発表会を実施。高1生は講座内発表を行う。

→ 発表形態は、①ステージ発表(代表者)、②ポスターセッションのいずれかで行う。

→ **グループで探究した生徒も、それぞれが発表すること(完成度は追求せず、完結した探究でなくとも良い)**

4. 探究活動は、授業時間内だけで行うものではなく、それぞれに自分の時間を活用して行うことを原則とする。「対話型」実施時の形態等については、事前に担当者から提案する。

→ ○対話・協働型のゼミ活動をすることで、自らの探究課題を見つめ直し、主体的に課題を探究できる

(注)原則として、学校内の施設・設備・備品等の貸し出しや利用は認めない。

5. 探究報告書(論文)を作成する。※高1生は「中間報告書」

→ **提出時期は、年間計画による**

→ **生徒自身が自らの探究活動を振り返り、「自分のコトバ」で語れるようにする(最終的に形として残すことで、入試に活用することが可能に)**

イ) 年間計画

探究活動の更なる充実を目的に、年間計画に基づき **2コマ続きで計画・実施**しました。

〔高校1年次〕水曜日 5・6 時間目

探究基礎 ※グループ探究				
企業が実際に抱えている課題を題材に、探究サイクルを回す				
回	日時	時	活動内容	備考
1	4/30(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● ガイダンス ● 企業プロジェクトについて知る 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ Time Tact の登録・説明 ➢ 探究学習の意義を知る ➢ 企業プロジェクトとは何かを知る
2	5/14(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 取り組む企業プロジェクトの決定 ● 仮説設定・アイデア考案 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 課題の背景や基本的な情報を、レクチャーを通して調べる ➢ 企業課題に対して、初期仮説(アイデア)を考える
3	6/4(水)	2		
4	6/25(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 仮説設定・アイデア考案 ● 調査の計画・準備 	➢ 初期仮説検証のためのフィールドワークやインタビューの実施計画立案
5	7/16(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査の計画・準備 	☆ 『夏季休業中調査計画書』の提出
※	夏休み		<ul style="list-style-type: none"> ◇ 調査の実施(フィールドワークやインタビュー調査など) ◇ 『企業プロジェクトまとめ』ポスターの作成(Time Tact 使用) 	
6	9/10(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 調査結果の整理・発表・振り返り ● 後期からの「探究ゼミ」希望調査 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 調査結果をもとにした初期仮説更新や新たな気づきの振り返り ➢ ゼミ希望調査の実施 ☆ 『企業プロジェクトまとめ』ポスター提出
探究前期 ※ゼミ活動開始				
自分の「興味・関心」に基づき、探究テーマを決定する				
7	10/15(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 高2生『探究中間発表会』参加 	➢ 高2ゼミ生の発表を聴講
8	10/29(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 所属ゼミ(仮)決定 ● 仮ゼミ活動開始 ● 探究仮テーマ決定 ※担当教員と面談等 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 希望調査をもとに、仮ゼミに分かれて活動開始 ➢ 探究仮テーマ決定に向けた教員面談 ☆ 『仮テーマ ワークシート』提出
9	11/19(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ゼミ毎に実施 ➢ 探究仮テーマ決定に向けた教員面談等
10	12/3(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 探究テーマ決定・発表 ● ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ゼミ毎に実施 ➢ 「探究テーマ」を、スライド資料を用いて発表
11	1/28(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等 	☆ 1月30日(金) 『探究中間報告書(その1)』提出
12	2/4(水)	2	探究中間発表会Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ➢ ゼミ毎に実施 ➢ スライド資料を用いて発表
13	2/18(水)		探究全体発表会	
14	3/11(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 探究活動の振り返り 	☆ 『探究振り返り』ワークシート提出

〔高校2年次〕 水曜日 5・6 時間目

探究後期 I				
自分の「興味・関心」に基いたテーマで探究を進める				
回	日時	時	活動内容	備考
1	4/30(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● ガイダンス ● 「自己探究」紹介 ● 今年度の探究計画立案 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 今年度のスケジュール確認 ➤ 現在取り組んでいる探究について報告
2	5/14(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等 	➤ 進捗状況の確認および今後の活動へのフィードバック
3	6/4(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等 	➤ 進捗状況の報告および今後の活動へのフィードバック
4	6/25(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等 ※オーラル発表応募開始(～6/27) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 6月30日(月) 『探究学習概要』提出
5	7/16(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 夏休みの計画や、9月の発表に向けたフィードバック ☆ 『夏季休業中調査計画書』の提出
※	夏休み		◇ 調査の実施および『探究中間報告書その1』+『発表スライド』作成	
6	9/10(水)	2	ゼミ内発表(仮)	<ul style="list-style-type: none"> ➤ スライド資料を用いて発表 ☆ 『探究中間報告書(その2)』提出
探究後期 II				
探究したテーマについて発表する				
7	10/15(水)	2	探究中間発表会II	<ul style="list-style-type: none"> ➤ スライド資料を用いて発表 ➤ 高1生は聴講者として参加
8	10/29(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等 	➤ ゼミ毎に実施
9	11/19(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等 	➤ ゼミ毎に実施
10	12/3(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等 	➤ ゼミ毎に実施
11	1/28(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ● 発表会準備 ● ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等 	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ゼミ毎に実施 ☆ 1月19日(月)『探究ポスター』提出
12	2/4(水)	2	発表会リハーサル	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ゼミ毎に実施 ➤ ポスター(データ)を用いてリハーサル ☆ 1月30日(金) 『探究報告書(最終)』提出
13	2/18(水)		探究全体発表会	
14	3/11(水)	2	● 探究活動の振り返り	☆ 『探究振り返り』ワークシート提出

ウ) 探究活動支援策

探究活動の質的向上を図るとともに、生徒の自走による主体的な探究活動の推進およびゼミ化による協働的な学びの活性化を目的として、以下の支援策を実施しました。

a) 探究ポータルサイトの充実

生徒が自ら課題を設定し、計画的に探究を進められる環境を整備するため、従来の探究ポータルサイト（「探究活動お助けサイト」）を全面的にリニューアルしました。

具体的には、探究の手法や進め方、研究計画の立て方、各種コンテスト情報等を体系的に整理し、必要な情報へ主体的にアクセスできる構成としました。

また、過去の探究活動をアーカイブ化し、先輩の研究成果や探究プロセスを参照できるようにしました。これにより、生徒が自ら問いを立て、研究の方向性を検討し、改善を重ねていく「自走型探究」を支援することを目指しました。

（※本校ホームページにリンク掲載）

b) 「探究ハンドブック」および「(教員用)ゼミの手引き」の作成・配付

生徒が探究の意義や目的を理解し、自律的に活動できる基盤を整えるため、「探究ハンドブック」を作成・配付しました。

本ハンドブックはポータルサイトと連動させ、日常的に参照できる実践的な構成とすることで、生徒の自己管理能力や計画性の向上を支援しました。

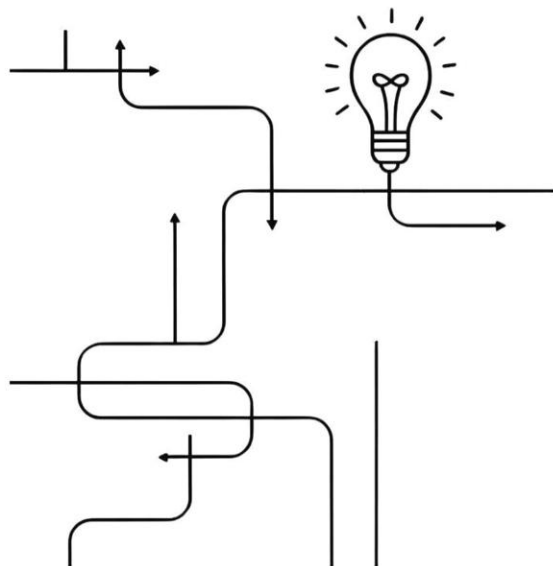
さらに、今年度より少人数制ゼミ形式での実施へ移行したことに伴い、生徒間および教員との協働的な学びを促進することを目的として、「(教員用)ゼミの手引き」を新たに作成・配付しました。

ゼミ運営の基本方針や指導のポイントを明確化することで、教員間の指導の共有化を図るとともに、生徒同士が互いに刺激し合い、対話を通して学びを深める環境づくりを推進しました。

これらの取り組みにより、探究活動を「与えられる学習」から「主体的に創り出す学習」へと転換する基盤整備を進めました。

「総合的な探究の時間」

ハンドブック



下館第一高等学校

目次

* はじめに	…p.1
* 下館一高『紫西ゼミ』基本理念	…p.3
* 『紫西ゼミ』年間スケジュール	…p.5
* 探究学習年間計画表	…p.8
* 探究学習をはじめよう	
I) テーマ・問い・課題の決定	…p.10
II) 探究の方向性を定める(情報収集、仮説立て)	…p.20
III) 分析・検証して考える(分析・検証、考察、まとめ)	…p.24
IV) まとめて発表する	…p.27
V) 振り返ろう	…p.29
* [APPENDIX] データ収集について・参考リンク	…p.31
* 参考文献	…p.32

はじめに

探究学習とは、「自分で問いを立て、情報を集め、考え、まとめる」活動です。学校の授業では、まだまだ「教えてもらう」スタイルが多いかもしれませんが、探究学習では「自分が知りたいことを自分で深く掘り下げる」ことが大切になります。

このハンドブックは、探究活動をスムーズに進めるために作成しました。自分の興味のあることを見つけ、テーマを決め、調べ、考え、まとめる…そういった一つひとつのステップをこのハンドブックを使いながら進めてみましょう！

【探究学習の特徴】

- 自ら問いやテーマを決める
 - 興味があること、課題だと感じることについて考え、問いやテーマを設定します。
- 主体的に学びを深める
 - 文献を読んだり、インタビューをしたり、自分で情報[オリジナルデータ]を集めて分析します。
- 言語化、発表して共有する
 - 調べたことや考えたことを他者に伝え、意見を交換します。

【探究の目的】

探究を行うことで、次のような力[非認知能力]を身につけることができます。

- 問題発見・解決力
 - 現実社会の問題や課題を見つけ、自分なりの解決策を考える力が育まれます。
- 情報収集・分析力
 - 正確な情報を集め、それをもとに論理的に考える力が身につきます。
- 自己表現力
 - 考えたことを他者にわかりやすく伝える力が高まります。
- 主体性
 - 自分で目標を立て、計画を進める力が養われます。

【探究活動の心得】

- 失敗を恐れない！
 - 新しい挑戦の中で成長が生まれます。
- 他者と協力する！
 - 意見を共有し、協力することで学びが深まります。
- プロセスを大切に！
 - 結果だけでなく、その過程が大切です。

【探究学習をはじめよう！】

【探究活動の流れ】

探究活動は、次のような流れで進めます。

- I) テーマ・問い・課題を決める
- II) 探究の方向性を定める(情報収集、仮説立て)
- III) 分析・検証して考える(分析・検証、考察、まとめ)
- IV) まとめて発表する
- V) 振り返る

上記のサイクルを通して、自らの考えや課題が新たに更新され、再び探究の過程が繰り返されていきます。

I) テーマ・問い・課題の決定

i) 探究学習における問いの重要性

探究学習では、生徒自身が学習の主体となり、問題や課題を発見し、それに取り込むプロセスを重視します。その中核となるのが「問い」の設定です。問いを適切に立てることができれば、探究活動はスムーズに進み、自らの興味・関心をもとに知識を深めるだけでなく、学びのモチベーションも高まります。

ii) 良い問いとは何か<具体例は後述します>

- [良い問いの特徴(例)]
- 具体的である(何をどう探究したいのか対象がはっきりしている)
 - 客観性がある(データや証拠をもとに考えられる)
 - 開かれている(Yes/No だけで終わらない)
 - 複数の視点・学問領域を横断する可能性がある
 - 答えが一つに限定されない(自分の考えや分析を加え、深掘りして考察できる)
 - 自分の興味・関心と関連している(モチベーションが維持しやすい)
 - 実現可能性がある(行動に結びつくテーマ)

[良い問いがもたらす効果]

- 探究を行う指針となる
- 情報収集の方向性が明確になる
- 思考を発展させやすい

iii) 問いを立てるプロセス(ステップ1:テーマの選定)

a. テーマや興味の整理

- ◆ まず、自分が興味をもっている分野や課題を広くリストアップ。
 - 一 例:「地球温暖化」「地域活性化」「SNSの影響力」「AI技術」など。
 - *見つからないという人は…
 - (1) マインドマップを使ってみよう！(pp.12-13)
 - (2) 世の中の関心事から探ってみよう！
 - 一 例:Yahoo!ニュースなどのトップニュース一覧から、面白そうと思った記事をいくつか選んでみる。
 - 気になった記事の共通点を探る
 - 共通点があれば、そこが探究のスタート地点、無ければその記事自体を先行研究としてとらえて深堀してみよう。

b. 背景知識の収集・整理

- ◆ すでに知っている情報や、ざっと調べてわかった基礎的な知識を整理する。
- ◆ 参考文献や既存の研究、ニュース記事などを探して読む。
 - ※館一探究ポータルサイトを参考にしてみてください！(巻末 QR コード)

c. 疑問点の抽出

- ◆ 背景知識を整理すると同時に、「なぜ?」「どうして?」と疑問を持った部分を書き出す。

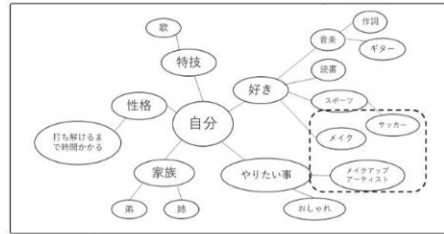
d. 良いテーマの条件を満たしているか

- ◆ 良いテーマとは、「探究しやすい」テーマです。p.10 に挙げたポイントの中でも、特に以下のポイントを考えながら決めてみましょう。(「テーマ選定シート(p.14)」を使用)
- 興味があるか? → 興味のないことを調べるのは大変!
- 深掘りできるか? → すぐに答えが出るものは探究にならない。逆に、答えが出るのに途方もない時間を要するものも探究には向かない。
- 情報が手に入るか? → 書籍やインターネットで調べられるものがある◎

マインドマップ

マインドマップは、中央にテーマを書き、そこから放射状に関連するキーワードやアイデアを広げていく発想ツールです。放射状に展開していくことで、関連性や抜け落ちている観点が見つけやすくなります。

例)

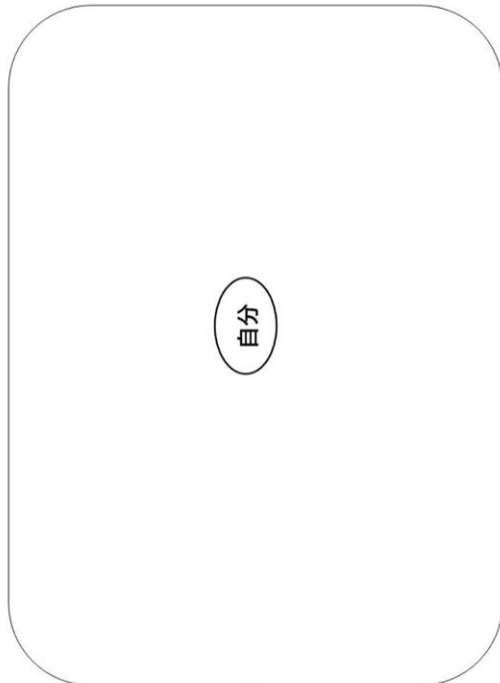


○テーマ設定の例:

- ・メイクに興味があるが、部活でサッカーをやっているため、日焼けが気になる
- ⇒常に日焼け止めクリームを塗らなくてはならず、お小遣いが足りなくなってしまう or 日焼け止めクリームは、人体に悪影響を及ぼさないのか?
- ⇒日焼け止めクリームに代わる、身近で手軽な代用品はあるか?
 - 紫外線を遮断または吸収する成分調査や、含有量による差異など、具体的調査が可能
 - 皮膚の再生についての調査や、日焼けのメカニズムについての調査など、先行事例研究の調査や、代用品を探して、実際に実験を行うなど、多角的アプローチが可能

(引用)Buzan, T. (2000) "The Mind Map Book: Radiant Thinking - Major Evolution in Human Thought", BBC Books.

☆テーマが決まらない人は、実際にマインドマップを書いて、そこからテーマを見つけてみよう!



iv) 問いを立てるプロセス(ステップ2:仮説を含む問いを設定しよう)

探究したいと思っている事柄(テーマ・キーワード)に、「5W1H」の質問と「YES/NO」質問をぶつけて、仮説を含む問いを立ててみましょう。

<キーワードにぶつける「5W1H」質問>

Who	主体	誰が?	Why	因果	なぜ?
What	定義	どういう意味?	How	経緯	いかにして?
When	時間	いつから?		様態	どのように?
		いつまで?			
Where	空間	どこで?		方法	どうやって?
				当為	どうすべきか?

<キーワードにぶつける「YES/NO」質問>

信憑性	事実か?
比較	ほかではどうか?
特殊化	これについては?
一般化	これだけか?
限定	すべてそうなのか?

○テーマ設定の例:

<キーワード:「食品ロス」>

① 5W1Hを用いた質問

Who	:食品ロスの主な発生源は誰(家庭、企業など)か?
What	:食品ロスがもたらす影響は何か?
When	:食品ロスが問題視され始めたのはいつか?
Where	:食品ロスが特に多い国や地域はどこか?
Why	:なぜ食品ロスが発生するのか?
How	:どのように食品ロスを減らすことができるのか?

② YES/NO 質問

コンビニの廃棄食品はリサイクル可能か?
食品ロスを削減することで環境負荷も軽減できるか?
賞味期限と消費期限の違いを理解している人は多いか?

→ 導き出される仮説を含んだ問いの例

Q. 『日本の食品ロス削減には、消費者の意識改革が最も重要なのか?』

Q. 『企業の取り組み(フードシェアリング、割引販売)は食品ロス削減に有効か?』

(引用元) 後藤芳文、伊藤史織、登本祥子(2014)「学びの伎-14歳からの探究・論文・プレゼンテーション」

[資料Ⅱ] (教員用)ゼミの手引き ※一部抜粋

令和7年
作成



下館一高・附属中 探究活動推進部

下館一高・附属中『紫西ゼミ』教員用手引書

はじめに

本手引書は、「総合的な探究の時間」の一環として行われる「紫西ゼミ」活動を、効果的に運営するための教員向けガイドです。教員の役割、ゼミの運営、進行管理、評価、理論的背景などについて実践的にまとめましたので、ご活用ください。

第1章:紫西ゼミとは

紫西ゼミは、生徒の主体的な学びを促進する少人数制の教育活動です。生徒が「自分の問い」を持ち、それに対して仮説を立て、情報を集めて考察し、表現・発信する一連のプロセスを経験します。ゼミは先生1人当たり15人程度の生徒で構成し、「教員とゼミ生の関係性を密にする」ことで、探究活動の更なる活性化をねらっています。ゼミでの活動を通して、生徒が自ら学びに向かう土台作りをすることを目的としています。

第2章:『紫西ゼミ』年間スケジュール



【高校1年次】水曜日 5-6 時間目

探究前期 ※ゼミ活動開始			
自分の「興味・関心」に基づき、探究テーマを決定する			
7	10/15(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> 高2生「探究中間発表会」参加 希望調査をもとに、仮ゼミに分かれて活動開始
8	10/29(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> 所屬ゼミ(仮)決定 仮ゼミ活動開始 探究仮テーマ決定 ※担当教員と面談等
9	11/19(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等
10	12/3(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> 探究テーマ決定・発表 ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等
11	1/28(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等
12	2/4(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> 『探究中間発表会1』 ※進捗状況発表および担当教員との面談等
13	2/18(水)		探究全体発表会
14	3/11(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動の振り返り

【高校2年次】水曜日 5-6 時間目

探究後期Ⅰ			
自分の「興味・関心」に基づいたテーマで探究を進める			
日	日時	時	活動内容
1	4/30(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ガイダンス 「自己探究」紹介 今年度の探究計画立案
2	5/14(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等
3	6/4(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等
4	6/25(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等 ※オンライン発表会開催
5	7/16(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等
※	夏休み		調査の実施および『探究中間報告書その1』+『発表スライド』作成
6	9/10(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> 『ゼミ内発表(仮)』
探究後期Ⅱ			
探究したテーマについて発表する			
7	10/15(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> 『探究中間発表会Ⅱ』 ※スライド資料を用いて発表 ※高1生は聴講者として参加
8	10/29(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等
9	11/19(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等
10	12/3(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等
11	1/28(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> 発表会準備 ゼミ活動 ※進捗状況発表および担当教員との面談等
12	2/4(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> 『発表会リハーサル』 ※発表会準備 ※進捗状況発表および担当教員との面談等
13	2/18(水)		探究全体発表会
14	3/11(水)	2	<ul style="list-style-type: none"> 探究活動の振り返り

第3章:教員の役割 — ファシリテーターとジェネレーター

ゼミにおける教員の役割は多様ですが、『紫西ゼミ』においては、今年度あらためて先生方にお願したいのは、「ジェネレーター」としての役割です。

☆ ファシリテーター: 学びの場を整え、問いを引き出し、活動を円滑に進める支援者。

「ジェネレーター」は、「ファシリテーター」の役割に加え、以下に示す役割を担います。

☆ ジェネレーター(井庭崇, 2011): 自らも探究に参加し、生徒とともに創造のプロセスを共にする人。

例えば、問いかけで対話を促したり、自身もアイデアを出して一緒に悩んだりするなど、教員が共に学びを生成するという姿勢で取り組んでみてください。従来の「教える人」から、共に問い、共に考える「触媒」へのシフトと捉えてください。

「ジェネレーター」の提唱者である井庭先生、市川先生は、ジェネレーターとしての心構え(ジェネレーターマインド)について、以下のように述べています。

『Grasp』の心構え

Graspとは日本語では「つかむ」ですが、ここでは創造のために学習者といっしょに見えないなりゆきを「つかむ」、という意味が込められています。それぞれを頭文字として5つの構成で成り立っています。



- ☆ G(Guide) : ゴールが決まっていない中で、道標をガイドする
- ☆ R(Release) : コントロールしようとしてず、自由にさせてみる
- ☆ A(Accept) : 思いつきや変なことであっても許容する
- ☆ S(Show) : 時に本物を見せる(外部講師など)
- ☆ P(Participate) : 生徒と一緒に議論に参加し、没入する



② 探究全体発表会

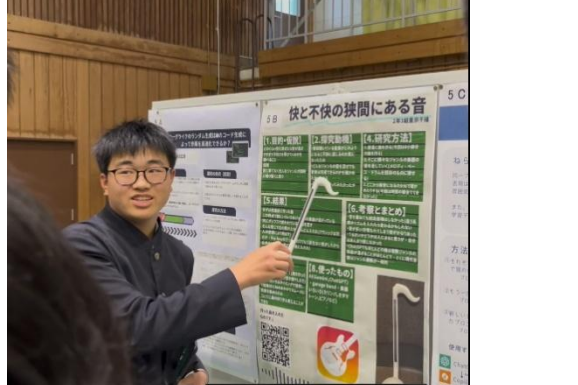
2月18日（水）に、高校生および附属中生による探究全体発表会が実施されました。高校2年次生は、1人1テーマで自身の興味関心に基づいた探究を進めてきました。テーマは多岐にわたり、身近な疑問から社会問題に関する考察など、幅広い視点からの発表がありました。昨年度より導入しているポスターセッションについては、前年度に先輩たちの発表会に参加していたこともあり、ポスターの構成やデザイン、発表のパフォーマンス面において工夫が見られました。発表を聞く側も積極的に質問する様子が見られ、「発表」から「セッション」に移り変わりつつあるように感じました。様々な探究に触れることで、興味の幅を広げ、一緒に議論を愉しむ姿勢を身につけていってほしいです。

また、今年度は新たな取り組みとして、発表会の一般公開を実施しました。外部の方々に実際に参観していただいたことは、生徒にとって「社会に向けて発信する」という意識を高める貴重な機会となりました。

今回の探究発表会を通じて、生徒たちは自らの研究成果を表現する力だけでなく、他者の意見を受け入れ、議論を通じて新たな視点を得る大切さを学べたのではないのでしょうか。発表を聞いていた後輩たちも、今回の発表会で得た視点をもとに、自身の探究活動に励んでほしいと思います。

[当日の様子]





[資料Ⅲ] 令和7年度「総合的な探究（学習）の時間」全体発表会実施要項

- 1 目的 他生徒の探究活動を知り、様々な分野の見識を深め、今後の探究活動や学習に対する意欲を高める。
- 2 日時 令和8年2月18日（水）12:25～15:45
- 3 場所 体育館
- 4 講師 茨城大学 石井純一先生
筑波大学 日高薫先生
- 5 その他 協力者：一般社団法人 COAs、茨城大学コロンブスの卵の会
- 6 参加者 本校附属中1～3年生徒、高校1・2年次生徒
近隣学校関係者等（事前申し込み制）
- 7 方法 高校2年次生・附属中3年生によるポスターセッション、および選抜者によるオーラルセッションを実施。オーラル発表者（高校生）は事前に公募し、選考・指導を行う。
- 8 日程 ※当日は午前中50分短縮授業で実施

時間	動き
10:45～11:35	会場準備（シート、パネル、ポスター） オーラルセッション発表者リハーサル
11:35～12:25	昼休み ※来校者受付（12:00～）
12:25～12:40	移動
12:40～12:55	開会行事
12:55～13:25	オーラルセッション（3グループ）
13:25～13:45	休憩・ポスター準備
13:45～15:10	ポスターセッション ①13:45～13:57 ②13:57～14:09 ③14:09～14:21 （③後、約10分の休憩を取ります） ④14:30～14:42 ⑤14:42～14:54 ⑥14:54～15:06
15:10～15:30	閉会式（講評含む）

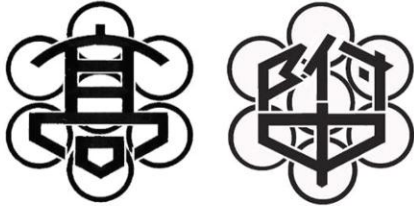
- 9 準備（全生徒）1月19日（月）ポスターデータ提出締切り。
（オーラル発表者）高2生よりエントリー生徒を募り（～6月27日）、発表者を探究部で選抜。オーラルセッション発表者はスライドをパワーポイント形式で整える。附属中は代表1グループを選出する。
- 10 その他
 - ① [ポスターセッション（高校2年次239人+附属中3年生10グループ）]
 - ・ 2枚連結パネルの表裏に3枚ずつ貼る。附属中は別パネル。
 - ・ 名簿作成時に6グループ（A～F）に分け、1ターム12分を6回転する。各ターム2グループずつ割り振り、1人最低2回は発表する機会を設ける。
 - ② [オーラルセッション（3グループ）]
 - ・ 体育館ステージのスクリーンに投影し、プレゼンを行う。
 - ・ 高2年から2人（グループ発表も可）、附属中3年から1グループの合計3グループ。
 - ③ [動画発表]
 - ・ DX探究ゼミによる動画
 - ・ ちくせいピアフェス2025に係るクラウドファンディング実施紹介

[資料IV] 発表会プログラム

～MEMO～

* 振り返りに使えるよう、発表番号、どんな内容だったか、疑問・質問などをメモするとよい

令和7年度
総合的な探究の時間 全体発表会
プログラム



日時 令和8年2月18日(水)

会場 茨城県立下館第一高等学校 体育館

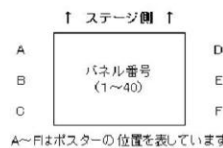
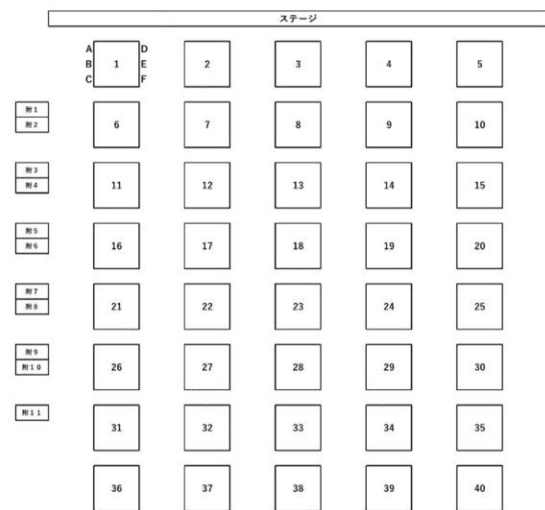
1. タイムテーブル

12:40 12:55	開会式
12:55 13:25	オーラルセッション (高校2名、附属中1グループ)
13:25 13:45	休憩・準備
13:45	ポスターセッション (前半) ① A・D * A～Fの順番は「4.ポスターセッション」を参照 ② B・E * 各発表時間は12分 ③ C・F * 終了3分前、1分前にアナウンスあり
14:30	ポスターセッション (後半) ④ A・E * 前半と組合せが違うので注意! ⑤ B・F * 各発表時間は12分 ⑥ C・D * 終了3分前、1分前にアナウンスあり
15:10 15:30	閉会式

2. オーラルセッション

12:55～13:05	筑西市のお土産を作ろう!!	3, 17, 21 (附中3年)
13:05～13:15	なぜポケモンは人気なのか?	614 (高校2年)
13:15～13:25	インプットしやすい説明の仕方	119 (高校2年)

3. パネル配置図



パネル番号	ゼミ系統
1～3	スポーツアナリティクス
3～4	自動走行モビリティ
4～6	生成AI
5～9	地産地消
9～26	文系ゼミ
26～40	理系ゼミ

例) 「A1」⇒「1」番パネルの「A」位置

4. ポスターセッション

パネル番号	探究テーマ	発表者
A 前半① 後半②	1 ジャンプの研究	113
	2 ソフトテニスの速いサーブの裏側とは?!	316
	3 ジャンプで高く飛ぶには	503
	4 自動走行をさせてみよう！	227
	5 ローライクのランダム生成は AI のコード生成によって作業を高速化できるか？	313
	6 筑西市を PR しよう！	128
	7 真岡市の公共交通について	411
	8 スピカを有効活用しよう	529
	9 『なくなる』を『つながらぬ』に変える	624
	10 聞こえないって本当に「伝わらない」こと？	410
	11 子どもが主体的に学べる学習環境とは	604
	12 就活で優位に立つ方法	203
	13 韓国コスメはなぜ人気なのか	425
	14 選択と心理 -究極の 2 択から見出す価値観の違い-	641
	15 効率の良い勉強方法	437
	16 アニメのオープニングの表現について	516
	17 筑西市の魅力 PR できるゲームを作ろう！	405
	18 人間と長さ	525
	19 音楽と集中力の関係	639
	20 音楽の魅力	436
	21 単語と音楽	534
	22 アメリカ人とイギリス人の会話は成立し得るのか	326
	23 ギルマン相手を再現したい！→ドイツ語・オランダ語・英語から考察する～	533
	24 AI の将来性	415
	25 名探偵コナンの映画の人気秘密は？	515
	26 植物は音楽によって成長を調節できるのか	115
	27 水電話の限界ってどこ？	230
	28 気象病について	339
	29 植物に音楽を聴かせると成長が促進するのは本当なのか	127
	30 様々な飲み物での葉の溶け方の違い	222
	31 いい夢を見るために	103
	32 黒人が AI を作っちゃおう	126

【前半】①13:45～ (A-D) ②13:57～ (B-E) ③14:09～ (C-F)
 【後半】④14:30～ (A-E) ⑤14:42～ (B-F) ⑥14:54～ (C-D)

A 前半① 後半②	33 屋外音楽フェスはなぜ成立し、人を惹きつけるのか？	201	
	34 色のイメージはどこからきている？	305	
	35 自然界に黄金比が存在するのはなぜか？	331	
	36 繪記について～英単語(英文)の繪記方法～	141	
	37 音楽と心理 ～音楽は人の感情に作用するのだから？～	235	
	38 運動後にベストなスイーツはなに！？	207	
	39 美味しいシナモンロールの作り方	309	
	B 前半② 後半③	1 テニスにおけるサーブの向上について	117
		2 甲子園行くまでケガ人 0 であるためには？	424
		3 心拍から求める適正練習強度	504
		4 自動運転に関する AI について	231
		5 快と不快の狭間にある音	319
		6 下館駅南口を救おう！	205
		7 我が身を守り、大切な人を守る「御身守り」の開発～ICT 機器で安心見守り～	418
		8 スピカの有効活用	531
		9 高校生と地域カフェのコラボは何を生んだのか？～SNS がもたらした新たな価値～	630
10 人の心を掴むためには		414	
11 真似するだけで距離が縮まる？バックラッキングは本当なのか		609	
12 イラつかない歌にする音		318	
13 増記力と増記方法		518	
14 教師は本当にブラックなの？		209	
15 芸術は爆発なのか	439		
16 教科にイメージカラーがあるのはなぜ？	522		
17 より良い企業に必要な経営戦略について探る	438		
18 一国一城令の一国と強制力	602		
19 筑西市の魅力 PR できるゲームを作ろう！	642		
20 なぜ授業中に寝てしまうのか	440		
21 犬は人の表情を読み取れるのか	537		
22 日本とブラジルの深いつながり	404		
23 季節に合う音楽	601		
24 アンパンマンは神～幼児心理への影響～	419		
25 和太鼓を叩く秘訣！	527		
26 手作り虫除けスプレーの効果	118		
27 色による心理的影響	307		
28 顔相撲で勝つには	629		

※A～F は発表グループ、表左の数字は「パネル番号」、表右の数字は「発表者(クラス番号)」です

B 前半② 後半③	29 慣れについて	132
	30 植物の光合成速度の変化について	224
	31 睡眠の質を良くするには	105
	32 ダサいスライドから学ぶ良いスライド	138
	33 兄弟姉妹間の視力と遺伝の関係	202
	34 良い人と悪い人の接し方とは？	310
	35 より良い運動の方法	336
	36 年齢と夢	206
	37 楽しく学校に来たい	332
	38 高齢者の食事を学ぼう	213
C 前半③ 後半④	39 お腹が鳴らない朝ごはん	312
	1 ジャンプ力について	125
	2 ジャンプ力を上げよう	428
	3 ホームランを打ちたい	603
	4 AI と自動運転について	233
	5 複数の生成 AI に同じテーマのアート作品を生成させて表現の差を比べる	330
	6 市の財政からお金の使い方を考える	215
	7 高校生と地域カフェのコラボは何を生んだのか？ ～SNS がもたらした新たな価値～	423
	8 心理学と笑顔 -笑顔が相手に与える影響-	535
	9 地域を盛り上げたい！	637
	10 メモリーパレスを使って記憶力をあげよう	421
	11 不安や緊張はどうして起こるのか	615
	12 猫はなぜ可愛いのか？	401
	13 誰でも集中する方法	519
14 視力よカムバック！	232	
15 漫画家になるためには？	501	
16 魅力的なキャラクターデザイン	613	
17 コンビニの食品進化	511	
18 リハビリ美術	620	
19 AI LoveFortune Telling	306	
20 売れる飲食店の特徴	502	
21 言語社会性についての考察	607	
22 スターバックスと世界の関わり～スタバの地域文化への適応～	413	
23 音楽の流行の要因	610	
24 サセンをなくそうの会	420	

【前半】①13:45～ (A-D) ②13:57～ (B-E) ③14:09～ (C-F)
 【後半】④14:30～ (A-E) ⑤14:42～ (B-F) ⑥14:54～ (C-D)

C 前半③ 後半④	25 ドラマの魅力 ～そうだ！ドラマを見よう～	530
	26 バスタブリッジ	124
	27 球の飛びやすさについて	322
	28 日焼け止めの SPF・PA の違いは紫外線防御効果にどのような影響を与えるのか	106
	29 恐竜と爬虫類鳥類の骨格の違いについて	142
	30 ゆで卵と卵焼きの調理感の違い	317
	31 高校生の悩みとスキンケアの関係について	109
	32 サイバー攻撃について	139
	33 ChatGPT は受験に使えるのか？	217
	34 人の特性と触れ合い方について	311
D 前半④ 後半⑤	35 性格と勉強法は関係しているのか	107
	36 どうして言語は 1 つじゃないのか	211
	37 自分に合う睡眠と勉強のリズムを見つける	334
	38 禁断のチーズインハンバーガー作ってみた！	229
	39 犬猫が食べても安全なチョコレートは作れるのか	338
	1 骨盤動作(ヒップコック)における走りや三段跳びの相互性	134
	2 ジャンプ力を向上させよう	431
	3 どうすればもっと楽に長く走れるのか？	611
	4 なぜ AI アンスタントの声は女性が多いのか	140
	5 身体の不自由な方におけるファッションを通じたウェルビーイングの実現	412
	6 筑西市におけるコンパクトシティ形成の可能性	314
	7 献血したい！	427
	8 地域経済学から考える地域振興	612
	9 筑西市 PR	640
10 描かれたディオニソス	426	
11 笑いのツボに入るとどうして抜け出せないのか	616	
12 ゲームは子供に悪影響があるのか	407	
13 わかっても行動ができない	532	
14 勉強をしよう！	329	
15 カエルの色について	505	
16 マンガ大賞の予想	618	
17 日本の銃火器の歴史	512	
18 古城の歴史	627	
19 ホ～みんなは書籍派？電子書籍派？～	325	
20 犬と人の感情はどれだけ近いのか？	506	

※A～F は発表グループ、表左の数字は「パネル番号」、表右の数字は「発表者(クラス番号)」です

D 前半① 後半②	21	中東及びイスラエル情勢「紛争が勃発する訳とは」	619
	22	ゲームは頭が良い？悪い？	507
	23	なぜポケモンは人気なのか？	614
	24	冬シーズンを乗りこなせ！スノーボード入門	422
	25	Kpop を深掘り	538
	26	植物は音楽を聴くのか	208
	27	色覚異常の色の見え方	327
	28	オカメインコは姿が見えなくても飛んでくるのか	110
	29	筑波山に雲がかかると雨って本当？	212
	30	化石研究録～古代の環境を予想してみよう～	333
	31	葉キャベツ漬の指示薬 としての有効性	111
	32	ピクトグラムって何？ 作ってみよう！	323
	33	なぜ悪役なのに嫌われないのか	219
	34	見た目と食感が理想のクッキーの作り方	315
	35	最高のテストの選択技	108
	36	聞き上手になるには	218
37	1日－500kcal で生活	104	
38	幼児に適した食事を作ろう！	236	
39	宇宙で発酵できるのか!!	340	
E 前半② 後半①	1	球連向に影響するピッチングの要素	135
	2	ブライオメリクスが競技特性の異なる競技者の跳躍パフォーマンスに及ぼす即時的影響	433
	3	バドミントン～サーブの秘密～	633
	4	高校生が最後まで見続けたいくなる心理的仕掛けとは	303
	5	日本史用語集のカバー率	432
	6	筑西市の財政について知りたい	402
	7	高校生視点で考える持続可能な観光地	520
	8	筑西をアニメの聖地に！ ～二次元コンテンツによる観光活性化～	617
	9	集中力を高める方法	210
	10	どうしてホームシックになるの？	429
	11	コミュニケーションの効果的な取り方	626
	12	MBTI で見るホグワーツの寮分け	409
	13	依存と依存症って何が違う	606
	14	効率のよい勉強方法	406
	15	視力よカムバック	510
	16	周利きになる	628

【前半】 ①13.45～ (A・D) ②13.57～ (B・E) ③14.09～ (C・F)
【後半】 ④14.30～ (A・E) ⑤14.42～ (B・F) ⑥14.54～ (C・D)

E 前半① 後半②	17	本当に政治家は必要？	513
	18	SNS 時代におけるガチャガチャ市場拡大の要因	632
	19	Apple 製品から考える美しいデザインとは何か	403
	20	自由とは	526
	21	手話の魅力を広めよう！	226
	22	アイヌ語について ～アイヌ語はなぜ消滅しかけているのか。アイヌ語を復活させるにはどんな方法が効果的か～	517
	23	海外旅行を楽しむための最強プラン	625
	24	平成レトロが再ブームの理由！	434
	25	お笑いの歴史と認知度	605
	26	木組みってすごいよね	216
	27	音楽と勉強の関わり	335
	28	シリカゲルは再利用できるのか	112
	29	目と耳の情報の入りやすさ	214
	30	SONY や任天堂のゲーム機はなぜ売れ続けるのか。	101
	31	良い睡眠とは	120
	32	快適な家とはどんな家か	324
33	愛犬の無駄吠えを減らすためには	220	
34	高校生と地域カフェのコラボは何を生んだのか？～SNS がつなぐ新たな価値～	320	
35	インプットしやすい説明の仕方	119	
36	双子の心伝心について	223	
37	塩麹でおいしく減塩できるのか	136	
38	ストレスと辛い食べ物の関係	301	
39	野菜や果物の差から紅茶を作る	608	
F 前半③ 後半④	1	ジャンプ力向上とランニングの関係	137
	2	ピッチングで変化球を活かすためには	435
	3	AI はどのようにして車を安全に走らせているのか	114
	4	艦これメデアミックス展開	308
	5	筑西市におけるコンパクトシティ形成の可能性	122
	6	下館駅南口を救おう！	408
	7	「なくなる」を「つながる」にかえる	524
	8	大会主催とその観点から見る市の交通機関の状況	621
	9	飯一生的！最強可愛い飯！！	328
	10	オリジナルの性格診断を作って流行らせよう！	508
	11	テスト前になるとどりあえず掃除が始まるのはなぜ？	129

※A～F は発表グループ、表左の数字は「パネル番号」、表右の数字は「発表者(クラス番号)」です

F 前半③ 後半④	12	仕事からわかる心理状態	416
	13	音と心理	631
	14	雑誌で見るレトロデザインの衰退と再解釈	430
	15	いい先生とはなんだろう？	514
	16	安土城の復元図を作る	130
	17	風刺画を描く	521
	18	AI を使った音楽を作る	635
	19	面白い漫画に共通する特徴とは	417
	20	最高の目覚めを手に入れる！“寝る前のルーティン”	528
	21	MBTI は信頼できるのか	234
	22	デイズニーの人気の秘密 “長年愛される理由”	523
	23	声について	634
	24	和食の健康面での優位性	509
	25	清少納言は本当に性格が悪いのか	636
	26	テニスで限りなくミス減らす方法	225
	27	New スーパー紙飛行機ブラザーズ	337
	28	イモリとバイオミメティクス	116
	29	庭の雑草はどうすれば結ばれるのか？	221
	30	ChatGPT の確り方	102
	31	桜の開花時期を予想してみよう	121
	32	オタ部屋を可愛くする方法	143
	33	映画館の魅力	302
	34	ジャンプ力が高い人の環境を利用する	321
	35	MBTI から見る性格と勉強法	131
	36	子どもの安心できる“居場所”を作ろう大作戦	228
	37	粉のひみつとカップケーキ	204
	38	強力粉と薄力粉の違い	304
	39	おいしいクッキーのひみつ	638

【前半】 ①13.45～ (A・D) ②13.57～ (B・E) ③14.09～ (C・F)
【後半】 ④14.30～ (A・E) ⑤14.42～ (B・F) ⑥14.54～ (C・D)

▼ 附属中 3 年生ポスター

発表時間	タイトル	番号	発表者(出席番号)
②	筑西魅力アップ PROJECT～筑西の果てまで行って G！～	附1	2, 12, 29, 39
	五行川のごみを調べよう！～ゴミが教えてくれること～	附5	10, 25, 30, 38
	筑西市を広めよう～オリジナルレシビ～	附9	1, 13, 36
③	筑西市の少子化～子供たちと遊ぼう！～	附2	11, 15, 19, 28
	筑西市のお土産を作ろう！！	附6	3, 17, 21
	筑西を味わう～筑西の魅力を食べで伝える～	附10	5, 16, 20
①	筑西市を愛する～人口減少を抑えるには～	附3	4, 23, 24, 26
	筑西市の“農力”を広めよう！	附7	9, 32, 35, 37
	MAKE PEACE WITH TOMATOES ～トマトと和食せよ～	附11	6, 22, 33
④	筑西市は本当に安全？～知っておきたい治安のリアル～	附4	7, 8, 27, 31
	食でつながる筑西～ご褒美は筑西の味～	附8	18, 34, 40

5. 式次第

開会式

- (1) 開式のことば
- (2) 校長挨拶
- (3) 講師紹介
茨城大学 特任教授 石井 純一 様
筑波大学 助教 日高 薫 様
- (4) 閉式のことば

閉会式

- (1) 開式のことば
- (2) 校長講評
- (3) 講評
茨城大学 特任教授 石井 純一 様
筑波大学 助教 日高 薫 様
- (4) 閉式のことば

[資料V] 生徒による探究成果物（ポスター）の一例

風刺画を描く

探究動機

ニュースで見る国際問題に興味を持って欲しい！
絵に起こせば視覚的にわかりやすそう！
教科書に載っている風刺画が良さそう！


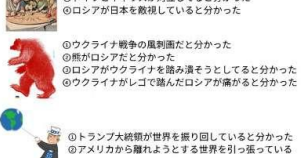
探究の方法

①風刺画に関するニュース、風刺画の書き方について調べ、風刺画を描く
→トランプ大統領の大統領外交を描くことにした
②風刺画の理解度を調べる
これらの風刺画の内容把握度を問う一冊下は自作
質問がたんに気付けらるものにした

③中国分割の風刺画だと分かった
④どの人物がどの面を表しているか分かった
⑤ドイツがオーストリアを併呑したと分かった
⑥ロシアが日本を侵略していると分かった

⑦ウクライナ戦争の風刺画だと分かった
⑧熊がロシアだと分かった
⑨ロシアがウクライナを踏み潰そうとして分かった
⑩ウクライナがロシアを踏み潰そうとして分かった

⑪トランプ大統領が世界を振り回していること分かった
⑫アメリカから離れようとする世界を引っ張っている


実験・調査結果

風刺画調べ

風刺画をうまく描くためには
1. 誇張、デフォルメを使う
2. その国のシンボルを使う
3. コーモアを入れる
4. シンブルにこれらが要点

描いた

アンケート結果(58人回答)



中国分割の風刺画の方が理解度が高かった
ウクライナ戦争の方は何も分からないと答えた人が多かった

考察とまとめ

中国分割の風刺画の方が理解度が高かったのは学校の教科書に載っていることからも、回答者の事前知識があったからと推測される

対してウクライナ戦争の風刺画の方は日常生活で接する機会も少なく、戦争のことも興味がある人っていないので、理解度が低かったと思われる

また、ウクライナ戦争の風刺画は情報量が少なく、ヒントが少ないので全く分からない人も出てきたと思われる

よって、風刺画の理解を深めるためには、ある程度の事前知識があった方がいい。また、調べた内容の「シンブル」には必ず盛り込む必要がある

振り返り

描いた風刺画は要点的「デフォルメ」「シンブル」「シンブル」はクリアできたと思う

ユーモアを入れるのはよくわかんなかったためこれらの課題になるがまた風刺画を多く描くウクライナ戦争の風刺画をアンケートで使ったものより分かりやすくて良かったと思った

犬猫が食べても安全なチョコレートは作れるのか

動機

チョコレートを食べた際に嘔吐する動物たちを見て悲しく
犬猫を救済したいと思った

目的

犬猫が食べても安全で、かつ、飼い主さんが食べても満足できる、市販のものに近いチョコレートを作る。

実験

なぜ犬猫にチョコレートは有害？
チョコレート中毒になり、興奮や痙攣、心臓血管の異常を起こし、最悪の場合死に至る。
テオブロミン中毒とは
犬猫が食べるテオブロミンによって起こされる中毒。テオブロミンには、中枢神経を興奮させる作用があり、犬に中毒を起こす可能性がある。もちろん人間にも同じことが言えるが、犬は甘みを感じない。結果的に動物が中毒の可能性が低い。
テオブロミンの血中半減期
ヒト→4-10時間 犬→約2時間
犬はテオブロミンの排泄速度が速く中毒になりにくい。




2回目のアンケート結果(14人の回答)

①4種類のチョコ(砂糖5g、10g、15g、市販)のうち、市販のチョコはどれか全員正解
②4種類のチョコのうち、苦手なチョコはあるか→なし: 12人 砂糖10g: 2人

③どのチョコが最も美味しいか
④市販のチョコとの違い



砂糖10g 7.1%
砂糖15g 21.4%
市販 71.4%

ざらざら食感
形や色
甘さ
酸味
硬さ
におい
酸味、苦味

考察

カフェオレパウダーの代わりにキャラボパウダーを用いることで、テオブロミンを含まない、犬猫にとって安全なチョコレートを作ることができた。

・さらに市販のチョコに近づけるためには、キャラボチョコをこしてなめかさを出したり、甘みを強くしたり、キャラボ独特の風味を少なくしたりする必要がある。

感想

犬猫専用の食べ物は頻りに見かけるが、犬猫人間用の食べ物は聞いたことがないから、作ってみて糖質や脂肪の量など、中毒だけでなく、摂取量や健康への影響も考慮するのがいかに難しいかを実感した。

参考文献
与えてはいけない食べ物その2: チョコレート
京都獣医学部獣医学部 左向敬記

SNS時代におけるガチャガチャ市場拡大の要因

1. 背景・目的・社会的影響

●背景
消費行動は、インターネットやSNSの普及によって大きく変化した。特に若者を中心に、商品に「購入する」だけでなく「共有する」行動が増えている。その中で、ガチャガチャがどのように受け入れられ、市場を拡大させてきたのかを調べる。

●社会的影響
市場規模とは、一定期間における商品の売上金額の総和を指す。ガチャガチャ市場は急激に拡大しており、玩具市場の中でも存在感を高めつつある。このことから、ガチャガチャが社会の一部の層だけでなく、幅広い世代に受け入れられていると考えられる。

2. 仮説

ガチャガチャが広がった理由の一つは、SNSで拡散しやすい特徴を持っているからではないかと考えた

3. 調査方法

TikTok・Instagramで「#ガチャガチャ」を検索し、検索結果に表示された投稿の上位から100件を抽出し、その中でいいねが1万以上の投稿を分析した

4. 調査結果

SNS別 投稿内容の比較

プラットフォーム	いいねが1万以上の投稿数
TikTok	49件
Instagram	30件

●TikTokの特徴
・関心系・結果系の投稿が多い
・動きや音がある動画が目立つ

●Instagramの特徴
・発売予定の投稿が多い
・情報を整理した投稿が多い

5. 文献調査

ガチャガチャの魅力として
・低価格で購入できること
・何が当たるかわからない「ランダム性」
・繰り返し購入したくなる仕組み
が挙げられていた。また、子供向けから大人向けの市場まで広がっている点も指摘されており、実際の市場拡大とも一致していると感じた。

6. 考察・今後

●考察
SNSによる拡散と、ガチャガチャ自体の仕組みが合わさることで、人気がさらに広がったと考えられる。特に「結果を共有したくなる」という点が、現代のSNS文化と深く結びついている。

●今後
今後は、「観光地限定」「海外向けデザイン」「デザイン技術との融合」などによって、さらに市場が広がっていく可能性があると考えられる。

参考文献
「ガチャガチャの経済学」 小野 謙吾

高校生と地域カフェのコラボは何を生んだのか？ ～SNSがもたらした新たな価値～

1. 探究の動機と目的

動機: cafe28と高校生とのコラボ商品が地域に与える影響はどんなものなのか、地域のフェアネスとの関係性を調べたい。
目的: コラボメニューがSNSで地域に与える影響を調べる。

2. 探究の方法

・ cafe28の方にお力を貸していただき、下紙印刷紙でコラボメニューを提供する。
・ その後の地域の方との関わりやSNSの影響を cafe28の公式Instagramを使い、調べる。

3. 実験の過程

6/23 打ち合わせを開始
▶アサイボールを作る方向で決定
7/9 試作品完成 課題「28らしさが足りない」
▶ドーナツを追加
7/24～7/26 下紙印刷紙で提供
商品提供後のSNSでの影響を調べる

4. 探究の考察

① コラボの効果

商品	アサイボール27個	700円	合計
7/24(木)	27個	700円	18,900
7/25(金)	47個	700円	32,900
7/26(土)	26個	700円	18,200

・夏祭り以降(9/30まで)の販売数33個
・全曜日販売数が多いのは次の日が休みだからだと考えられる。
・夏祭り期間中は高校生の来店人数が多かった。
・年齢別オーディエンスでは25～44歳の方の関心が多いが、実際に来店した方の年齢も同様であった。
・特に健康に気を使う女性が多かった。

5. SNSの反応

お祭りの種類別投稿数118件
いいねの数: フォロワー獲得数
・投稿の投稿数が今までで最多。理由として高校生が自分のInstagramで高しきョウで、地域の方に発信したからだと考えられる。

③ SNSとの関係性

・ Instagramを使用する一層の目的は「お祭り」
・ フォロワー数と投稿数の相関性は関係しているのか
▶関係はしているが比例していない
・ SNSは高層か低層か
▶ターゲットごとにSNSを使い分けたり、どのタイミングでどういふものを発信するか月先まで考えるのは大変。しかしお祭りの反応が文字で嬉しい。多少の負担はあるが認識になっている。

6. 探究の振り返り

①実験・調査を振り返って
地域の小規模なカフェとSNSという広範な媒体との対比を通し、両者の関係性を今までの経験と照らし合わせて理解することができた。反省点としては、夏祭り前の結果をとらななかったこと。その結果もあればもっと有意義な探究になったと思う。

②課題・今後の展望
今回は来店や反応の変化を中心に探究したが、今後は来店者やSNSを見る側の視点も取り入れることで、SNSを通した関係性をより多面的に捉えらるることができると考える。

2. 地域連携型探究活動について

① 地元行政や企業と連携した地域おこし活動イベント等への参画

地元行政や企業と連携・協力し、地域活性化を目指した様々な活動を行いました。

○ 地元カフェや地域おこし協力隊との商品開発・販売

高校生らしい視点でコラボメニューを考案しました。また、それだけでなく Instagram を用いた広報活動にも取り組み、サイト分析結果から SNS の有効性について探究しました。

・地元カフェとのコラボメニュー：

アサイーボウル（下館祇園まつりで販売）



(café 28+ 公式Instagramより)



・地域おこし協力隊との共同開発商品：

筑西しあわせグミ（ちくせいビアフェスで販売）



(筑西市シティプロモーション公式Instagramより)



○ スピカビル管理会社との連携による自習スペース「ノヴァーレ」の有効活用

駅のすぐ近くにある自習スペースを、より使いやすくするため、管理会社と連携した探究活動を実施しました。その中で、高校生による提案で公式 Instagram を開設し、空席状況がわかるシステム作りに取り組みました。



(ノヴァーレ公式Instagramより)

○ ちくせいビアフェス 2025 の開催

今回で 3 回目となる本企画は、地域活性化を探究する生徒たちが中心となって実行委員会を発足し、生徒自らが市や飲食店等と相談や交渉を続け実現させたものです。昨年度に引き続き、筑西市、下館商工会議所、地元さくら商店街振興組合や本校 PTA からの後援、そして今年はさらに、筑西市観光協会や JA 北つくばの皆様、下館工業高校や鬼怒商業高校の生徒の皆様にもご協力いただき、昨年度よりも充実した内容での開催となりました。

今年はイベント開催のための資金を集めるため、生徒たちの発案で、初めてのクラウドファンディングにも挑戦しました。慣れないことの連続で、募集開始までかなりの時間を要してしまいましたが、皆様から多くのご支援をいただき、どうにか開催にこぎつけることができました。

イベントは下館工業高校ジャズバンドのオープニング演奏に続き、設楽市長による開会宣言で幕を開け、ステージでは本校吹奏楽部やダンス部、軽音部、チアリーディングの発表はもとより、地元アーティストの方々にもご出演いただき、ジャンボカラダじゃんけん大会や会場内での各種高校生企画など、趣向を凝らした企画の数々で大にぎわいを見せました。

当日は天候にも恵まれ、前回までを大幅に上回る約 1,500 人ものの方々に来場いただき、盛況のうちに終わることができました。

各種アンケート調査などを実施し、その結果を考察しながら、今後の地域活性化に向けた探究活動を継続していきます。



※ 本取り組みが「青少年団体等顕彰」を受賞しました！

このたび、本校生徒を主たるメンバーとして活動している「ちくせいビアフェス実行委員会」が、地域社会への積極的な貢献活動が評価され、公益社団法人茨城県青少年育成協会主催の令和 7 年度「青少年団体等顕彰」を受賞しました。

② 地域と連携した探究活動

○ 下館一高・下館二高合同ワークショップ

10月10日(金)に、本校高1・高2生9名が、下館二高の生徒さんと一緒に、スピーカビルにて開催された「下館一高・下館二高合同ワークショップ」に参加してきました。

筑西市シティプロモーション課主催で行われたこのワークショップでは、「筑西市のWEB動画をみんなで考えよう」と題し、市で作成予定の「100人図鑑」をPRするために、どういった動画を作ればよいかについて話し合いが行われました。

動画や広告制作のプロの方にお話を伺い、高校生どうしてアイデアを出し合って、1つのプランを作成しましたが、最初は緊張して強張っていた表情も、次第に笑顔が増え、最後は熱を帯びたディスカッションを繰り広げていました。

発表されたアイデアも高校生らしい視点で練られており、大変素晴らしいものでした。

学校の外へ飛び出し、外部の人達とつながり、そのニーズを知って行動する、まさにそのような貴重な経験ができる機会になったと思います。



○ 探究学習に係る「下館駅南口の空きスペースの活用について」ワークショップ

令和7年11月25日(火)、令和8年1月29日(木)、関東鉄道(株)様および筑西市との連携事業として、「下館駅南口空きスペース活用」ワークショップを実施し、本校の高校2年次生8名が参加しました。

本事業は、昨年度からの継続事業で、今回で5回目(現地視察を含む)の開催となりました。

麗澤大学より岡田忠夫先生をお招きし、プロジェクトについての講義を聴講した後、昨年度より検討していた活用アイデアを集約すべく、生徒たちが議論を繰り広げていました。

その後、関東鉄道様から予算等について説明を受け、年度内の着工に向け、実際の運用面に関する計画を中心に話し合いを進めています。

アイデアが周りの大人たちを巻き込みながら実際に形になっていく過程を、身をもって経験することができる、またとない機会になりました。



③ 教育機関との連携による探究活動

○ 茨城大学との連携による「高校生による模擬教育実習」の実施

7月2日(水)に、本校3年次生2名、同じく2年次生3名の計5名が、ラーケーション制度を活用し、笠間市立大原小学校で模擬教育実習体験をしてきました。

本事業は、昨年度より、「総合的な探究の時間」の一環として、茨城大学石井純一先生および笠間市教育委員会にご協力いただき、教職に関して課題設定を行った高校生が、実際の学校現場を体験することにより、教職に就く意欲の向上を期して実施しています。

参加生徒たちは実習に向け、石井先生との事前研修および打ち合わせを行い準備してきました。当日は、茨城大学の学生とバディを組み、丸一日、小学生の授業に支援員として実際に児童の指導に加わり、非常に貴重な体験をすることができました。

[参加生徒の声]

- ・ 「最初のうちは教え方や伝え方に苦労しましたが、言葉選びや子どもたちの反応を見て問いかけを変えるなど、自分たちなりに工夫を凝らして実践できたと思います」
- ・ 「子どもたちの『わかった!』、『ありがとう!』の声はとても嬉しかったです」
- ・ 「教えることの難しさを実感しました。ちょっと(教職に就くことが)不安になりましたが、逆に早いうちから準備や対策をできると思うので良かったと捉えています」
- ・ 「昨年度に続いての参加だったこともあり、“教師”として児童をみたり、児童との目線の合わせ方を意識したりしながら実践できたと思います」



○ 難聴者体験模擬授業実践（下妻小学校）

10月17日(金)に、本校2年次生の小口さんが、下妻市立下妻小学校において、探究学習に係る模擬授業実践を行いました。

小口さんは『聞こえないって本当に“伝わらない”こと?』というテーマで探究活動を進めてきました。その中で、難聴者の立場の体験を通し、コミュニケーションの場面における難聴者の目線の希望や要望を実感してもらうことで、難聴者と健聴者のコミュニケーションの障壁をなくし、共生社会の実現に向けた意識共有が図れるのではないかと仮説を立て、今回の体験授業を計画しました。できるだけ早期の教育の必要性を感じた小口さんと、その考えに共感してくださった下妻小学校の先生方のご協力で、今回の模擬授業が実現しました。

授業は4年生と5年生の2学級で行われ、最初は教師役で緊張を隠せなかった小口さんですが、元気な児童たちのエネルギーに後押しされ、次第に笑顔で授業を進めるようになっていきました。子どもたちはクイズやゲームを通し、コミュニケーションの手段を学んだり、難聴者にはどういった困難があるのかを体験的に学んだりしていました。

授業を終えて、小口さんは「手話や読唇術を知ってもらうきっかけになったし、何よりも楽しんで学んでくれたのが良かった。また、こういった機会をもっと設けたり、啓発活動を増やしたりしていくことが共生社会を作る第一歩になる」と感想を述べていました。

探究活動を通して、実際に社会参画の一端に携わることができた大変貴重な機会になったのではないかと思います。



○ 探究学習に係る小学校インターンシップ（関城東小学校）

「教師は本当にブラックなのか」というテーマで探究活動を行っている生徒が、11月27日(木)と12月5日(金)の2日間、筑西市立関城東小学校にて模擬教育実習を実施しました。

小学校教諭を志す生徒にとって、教員の立場から実際の現場を体験できたことは、業務内容ややりがい、苦勞する点について知見を深める貴重な機会となりました。

朝の立哨指導や自習補助、持久走大会の運営補助などを通じ、多忙な現場のリアルを肌で感じる一方で、児童の成長を間近に実感できる職の魅力も再確認したようです。

[参加生徒の感想]

実際に小学校で先生の働き方を見たり児童と接したりして、自分が目指す教員の仕事のイメージをつかむことができました。訪問した小学校で出会った先生のように、信頼され、児童生徒をレベルアップさせることのできる先生になりたいという思いが強くなりました。また、今後はどうすれば先生の負担を少なくすることができるのか考察したいと思いました。



3. 国際理解教育

グローバルな視点を持った生徒育成に向け、異文化および国際理解を深化するための様々な教育活動を実施した。

① 海外希望者研修（オーストラリア・パース）：

Study Abroad Program in Australia

From August 7th to August 19th, our school's third-year junior high school students through second-year high school students participated in a study abroad program in Perth, Australia.

At their local school, they had the valuable opportunity to experience "real-life English" through various classes.

They also visited tourist spots around Perth and interacted with host families and local school students, experiencing diverse cultures and values.

This program was an invaluable experience for the students, broadening their horizons through interactions with people from different backgrounds.

8月7日（木）から8月19日（火）までの期間、本校の中学3年から高校2年の生徒が、オーストラリア・パースにて研修を行いました。

現地の学校では、数学や音楽などの様々な授業を通じて「生きた英語」に触れる貴重な機会を得ました。また、パース周辺の観光地を訪れたり、ホストファミリーや現地校の生徒たちと交流したりする中で、多様な文化や価値観、そして人々の暮らし方に触れることができました。

異なる背景を持つ人々との関わりを通じて、視野を広げ、言葉だけではないコミュニケーションの大切さを体感することができた今回の研修は、生徒たちにとってかけがえのない経験となりました。

～主な日程～

[8/9(土)～8/10(日)]

ホストファミリーと共にパース周辺を観光

[8/11(月)～8/15(金)]

現地校の授業に参加。8/13(水)はピナクルズを観光

[8/17(日)]

マカオ(中国)を観光

[8/18(月)]

香港を観光

[現地生徒との交流]



[ピナクルズ観光]



・国際理解教育としての成果

ホストファミリーとの共同生活や現地校での授業参加を通して、異文化への理解を深めた。英語による実践的なコミュニケーションを重ね、多様な価値観や考え方を尊重する姿勢を身につけることができました。

・探究学習研修としての成果

生徒達は日本とオーストラリアの学校生活や生活習慣、食文化の違いなど、様々なテーマについて学びを深めることができました。気候や自然環境の違いに着目した探究や、トレーニング文化の比較など、個々の興味に基づいた学習も見られました。

・参加生徒の評価

参加した生徒からは、「現地の人々の温かさに触れられた」「自分の英語力を試す良い機会になった」などの声が多く、研修全体を通して大きな充実感と達成感を得たとの感想が寄せられました。

・その他

研修後半にはマカオや香港を訪れ、異なる国や地域の文化・歴史・街並みに直接触れることで、多様な価値観や社会のあり方を肌で感じることができました。特に香港ディズニーランドでは、異文化の中でのエンターテインメントの工夫や表現の違いにも関心を寄せる生徒が見られました。こうした体験を通して、生徒たちは国際社会への理解をさらに深め、自らの将来や学びの方向性について考えるきっかけを得ることができました。

[香港ディズニーランドにて]



② ベトナム・ハノイ研修 (SEKISHO JOB FAIR インターンシップ)

1. 概要

ベトナム・ハノイにて、約1週間の海外研修を行った。参加生徒2名については選抜を行い、1名は考古学や発掘に興味があり、非破壊検査や保存に関する研究をしたい生徒、もう1名は将来海外での日本語教師を志し、企業の海外進出や外国人雇用の実情に関心のある生徒である。

2. 日程

10/17(金) 事前説明会	関彰商事下館本社にて、ベトナム海外研修の保護者説明会を行った。
10/29(水) 研修1日目	12:00 に成田空港集合、14:40 成田空港発 20:30 (現地時間 18:30) ノイバイ国際空港に到着 23:30 (現地時間 21:40) 宿へ到着、夕食を食べて1日目終了
10/30(木) 研修2日目	日越大学訪問 大学1年生向けに開講されている日本語クラスへ参加。自己紹介、学生と一緒にロールプレイを行った。将来海外での日本語教師を志す生徒にとっては、現地学生たちの意欲の高さ、日本語教育の現状など、自分の目で確かめる良い経験となった。 昼食 ブンチャー(焼肉入り米粉つけ麺)やネムザン(揚げ春巻き)を食べ、現地の食文化に触れた。 JIS 日本国際学校訪問 小学5年生の日本語授業に先生として参加。自己紹介、絵しりとりゲームなどを通じて、現地の児童と交流した。高校3年生の授業も参観し、日本へ留学したい学生がとても多いことを体感した。
10/31(金) 研修3日目	ベトナム社会科学アカデミー 古都研究所 元副所長のライ ヴァントイ准教授・博士のご自宅訪問 セキショウベトナムの方に通訳していただきながらインタビューをした。専門を突き詰めると同時に、周辺知識に関心をもつことも必要、と助言をいただいた。考古学に興味がある生徒は、遺跡研究者との対話を通して、研究に対する姿勢を学ぶ良い経験となった。

<p>(つづき) 10/31(金) 研修3日目</p>	<p>国際交流基金 日本語パートナーズの先生方との会食</p> <p>日本語パートナーズから派遣されている先生お二人と会食を行った。歓談の中で、将来のキャリアに向けてのアドバイスをいただいた。JISの小学生に教えてもらったバインクオン(蒸し春巻き)やゴイクン(生春巻き)、バインセオ(ベトナム風お好み焼き)を食べた。</p> <p>セキショウ・ジョブフェア準備@ハノイ工科大学</p>
<p>11/1(土)・11/2(日) 研修4・5日目</p>	<p>セキショウ・ジョブフェアの運営補助活動</p> <p>企業受付や誘導など運営の補助活動をしながら、企業説明会の雰囲気を感じた。出展した日本企業の熱量やベトナムの大学生の意欲を直に感じる事ができた。</p> <p>ナイトマーケット散策</p>
<p>11/3(月) 研修6日目</p>	<p>ハノイ周辺の観光</p> <p>タンロン城跡、文廟、などを訪問した</p>
<p>11/4(火) 研修7日目</p>	<p>0:20 ノイバイ国際空港を出発 6:50 成田空港着後、解散</p>

3. 活動の様子

①日越大学訪問	②日本語クラスの学生たちと交流
	
③最後は記念写真を	④ JIS 日本国際学校訪問
	
⑤小学5年生に向けて自己紹介	⑥はじめての授業！
	

⑦ トイ准教授のご自宅にて



⑧ 日本語パートナーズの先生方との会食



⑨ ジョブフェアの会場となったハノイ工科大学にて



⑩ 企業受付の手伝い



⑪ タンロン城跡 採掘場



⑫ 文廟（ユネスコ世界記録遺産）観光



4. 生徒の声

▼参加生徒1

ベトナムでの研修では、日越大学や現地のインターナショナルスクールを訪問し、現地の学生がどのように日本語を学んでいるのかを見学しました。実際に日本語を学ぶ学生たちの姿勢や、文化を越えて学ぼうとする意欲に触れ、日本語教育の広がりや難しさを実感しました。

また、私は発掘の現場で使われる機械に興味があり、研修中にはベトナムで考古学の雑誌記者として活動し、大学で准教授も務めていた方にお話を伺いました。その中で、ベトナムの考古学研究の現状や、文化財の保存・発掘における技術的な工夫、日本との違いなどについて学ぶことができました。

これらの経験を通して、自分の持っていた将来のイメージをより具体的にすることができました。今後は、発掘や調査において非破壊的な技術を活かし、文化財を守る分野で国際的に関わることを目指したいと考えています。

▼参加生徒2

今回の研修を通して、自分がやりたいと自信を持って言える職業を見つけることができました。

日越大学を訪問した際は、現地の大学生が受ける日本語の授業を見学しました。見学したのは会話の授業で、日本語の会話文をロールプレイ形式で学習していました。会話のテーマは苦情を言うなどの日常的なもので、言い訳をするなど細かな状況に合わせた言い回しを重要表現として覚えるスタイルでした。現地の学生はフレンドリーな方が多く、前に出て会話を披露する際には積極的に手を挙げる姿が見られました。

日本国際学校では、現地の小学五年生とゲームを通して日本語で交流しました。生徒たちは一年生から日本語を学んでいるためか会話がスムーズで、私達がやや難しいと感じる程の漢字を勉強していて驚きました。私は将来日本語教師を目指しているため、実際に日本語を教える体験ができ嬉しかったです。

国際交流基金の日本語パートナーズの方々との交流では、仕事の内容を始め様々なことを聞くことができました。まさに私がやりたいことを職業としている方々の話を聞いていく中で、今まで何となく決めていた自分の将来の夢に初めて自信を持つことができました。

実際に自分で現地の雰囲気を感じ、人々と出会い交流することでたくさんの学びを得ることができました。今回の研修で感じたことを大切に、これからの進路に活かしていきたいと思います。

③ ブリティッシュヒルズ・イングリッシュセミナー（高校1年次）

4月24日(木)～25日(金)の2日間、高校1年次でブリティッシュヒルズの語学研修に参加してきました。

～生きた英語力～

外国人講師を相手に様々な英語のアクティビティを行い、グローバルなコミュニケーション力を身につけることができました。ブリティッシュヒルズではスタッフとのコミュニケーションや看板、メニュー表など、全てのサービスが英語で提供されるため、より実践的な英語力を身につけることができました。

～異文化理解と協調性～

生徒たちは、異なる文化や背景を持つ講師やスタッフとの交流を通じて、多様な価値観や考え方に触れることができました。この体験は、生徒たちがグローバルな視野を持ち、他者を尊重する心を養う上で大きな価値がありました。

夜には、本格的なブリティッシュ料理を楽しみながら、英語でのディナータイムを過ごしました。生徒たちは、英語を使いながらリラックスした雰囲気の中で会話を楽しみ、異文化に対する理解を深めました。

授業では、チームで協力しながら英語でのプレゼンテーションを行い、自分の文化を他者に伝える楽しさと難しさを学びました。また、他のチームの発表を聞くことで、異なる視点や考え方を学ぶ機会となりました。



④ 高校生国際協力開発プログラム (JICA 筑波)

昨年度に引き続き、4月19日(土) JICA 筑波において、本校生徒が国際協力実体験プログラム成果発表に参加してきました。本校生徒は、SNS や生徒アンケートなどを活用し、筑西市に住む外国人の方々にとって住みよいまちづくりを実現するための取組について発表しました。看板や案内板における言語表示の工夫や、地域ごとの外国籍住民数の分析などを行い、多文化共生の実現に向けて主体的に行動することで、見識を深めることができました。



⑤ 台湾の高校生との交流

12月2日(火)、本校高等学校に台湾から高校生が来校し、本校生徒と英語を用いた交流やアクティビティを行いました。言語や文化の違いを越えて相手の意図を理解しようとする姿勢の大切さを実感するとともに、英語を「使う」ことで伝わる喜びや課題に気づく機会になりました。相互理解を深める中で、国際的な視野を広げ、主体的に関わる姿勢を育むことができました。



⑥ グローバル教育講演会

12月10日(水)に「令和7年度グローバル教育成果報告会」を実施しました。

第一部では、オーストラリア海外研修参加生徒、関彰商事(株)後援のセキショウ・ジョブフェア in ハノイ参加生徒、そしてオックスフォード国際教育プログラム参加生徒よりそれぞれ報告がありました。現地で感じ、そして学んだ文化や生活、そして教育の違いについて熱を込めた発表で、実際に参加した生徒にとってだけでなく、聴講した生徒たちにとっても今後に向けた良い刺激になったと思います。

第二部では、元外務省外交官で、カナダやバチカン市国で大使を歴任された岡田誠司氏より、「グローバリズムとは何か?その未来は?」という演題でご講演いただきました。本校OBでもある岡田氏の講演に、生徒たちは熱心に耳を傾け、講演後は、生徒たちが氏に進路や将来について質問をぶつけるなど、自分たちの将来像に真剣に向き合う貴重な時間となりました。



4. 科学教育

① 大学科学体験教室

令和7年7月26日(土)、宇都宮大学(陽東キャンパス)にて、科学体験講座を実施しました。高校1・2年生から希望者を募り、合計で15名の生徒が参加しました。午前中は宇都宮大学のオープンキャンパスに参加し、学内で開かれている様々な学科や研究室の展示ブースをまわり、説明を聞きました。午後は工学部の東先生、鈴木先生のサポートのもと、「来学型実験体験講座」に参加しました。講座名は「モーターをあやつってみよう!」とタイトルで、生徒たちは楽しそうに、各自が電子回路を作成し、モーターの回転数などを自由に操作していました。

生徒からは「回路を組み立てるが細かい作業で難しかったが、実際にモーターを調整できたことが面白かった」、「もともと工学に興味があって参加しました。実際に回路を組んで、モーターを操作できて楽しかったし、この分野の学びが広がって良かった。」、「大学の雰囲気も分かり、進路選択に関して有意義な経験になった。」などの感想を聞くことができ、大変有意義な時間を過ごすことができたようです。今後の理系分野への興味・関心に繋げたり、これからの進路選択の一助にしたりしてほしいと思います。



② 自然保護活動（野焼きがタチスミレを救う）

令和8年1月12日（月）、ミュージアムパーク茨城県自然博物館が主体となって行われている菅生沼付近の野焼き体験に参加させていただきました。

野焼きを行う目的は、絶滅危惧植物の保全活動です。この活動には博物館や大学（筑波大や東大等）、地域の人達などから多くの人々が参加していました。活動の中で講師の人から詳しくお話を聞くことが出来てとても貴重な時間となりました。

火を付ける前に周りの草や枝を綺麗に掻き分けます。館一生も積極的に参加する姿が見えました。火が点けられると一瞬で広く、高く、燃え広がり、大迫力で離れた所に居ても熱の波を強く感じました。火が消えると、草が生えていたことが嘘かのように綺麗になっていて驚きました。

燃やしてしまっっては守るべき植物まで燃えてしまうのではないかと疑問を持ちます。しかし、炎の熱は地中や地表付近では大して温度が上がらないので周りの背の高い植物の枯れ草だけを燃え尽くします。よって地中や地表にある絶滅危惧植物の種には影響はなく、さらには、程よく温度が上がることで発芽を促しているのだそうです。

このように保全活動を続けているものの、年々タチスミレの個体数が減っているのが現状であり、これからの私たちにかかっています。今回保全活動に参加して、絶滅危惧植物を少しでも守ることが出来た喜びと、自然を大切にしていかななくてはいけない事に改めて気付かされました。とても良い経験となりました。



③ DX 事業連携探究プログラム

1 探究活動の狙いと指導体制

令和7年度は、DX ハイスクール事業と連携し、ICT 活用スキルの底上げを図りながら、「論理的探究力」の向上を目標として「自動運転」「スポーツ」「観光」「生成 AI」の4コースで DX 探究ゼミを開設しました。指導にあたっては、難易度の高い「疑問や課題、方法の設定」を専門家や教員が伴走して支援し、生徒が「分析や考察、振り返り」に重点を置くことで、「考える力」を効率的に引き出す体制を構築しました。

2 重点探究分野の取り組み

- a. 自動運転モビリティ：地域課題（ラストワンマイル）の解決をテーマに、Python を用いた自動運転の認識技術（センシング）のプログラミングと実機走行を体験的に学習。
- b. スポーツアナリティクス：筑波大学との連携により、高性能カメラで動作を数値化。データに基づいた運動能力向上や怪我予防の課題解決を探究。
- c. 生成 AI 活用：生徒の興味に基づき、AI を「思考の補助」として活用。効率的なプロンプト（本質的な指示）の打ち方を学び、コンテンツ作成やビジネス創出の視点を醸成。
- d. 観光とビッグデータ：JTB のデータ（人流・宿泊）を活用し、「ちくせい花火大会」への誘致策を分析。他地域の成功事例をモデルに、宿泊付加価値を高めるプランを考案。

3 主な成果

総合的な探究の時間に DX を統合したモデルケースを構築し、一部のチームは「DIGITAL YOUTH EXPO」の県審査を通過するなどの評価を得ることができました。生成 AI 分野では「微細な条件設定」から「本質的な指示」への視点の変化が見られたり、スポーツ分析を通じてクラウド共有やデータ移行など、実践的なツール活用の重要性を把握したり、ICT および AI リテラシーの基礎を構築したりすることができました。

4 今後の課題

ICT スキルには個人差があり、データ処理の基礎段階で戸惑う生徒が見られ、分析に時間を割くための「継続的な底上げ支援」が不可欠であることが課題として挙げられます。また、ツールを使う段階に留まらず、データから論理的に課題を解決する「分析の深さ」の向上や、考案したプランの実用性・有用性を具体的に検証していく必要があると考えられます。



5. キャリア教育

① 紫西プレカレッジ

I 実施要項

1 実施目的

- (1) 大学の授業を体験し、その雰囲気や学問の奥深さ・面白さを感じ取ることで、主体的な進路選択に役立てる。
- (2) 自らの興味関心と向き合いながら専門的な学問領域に触れることにより、探究学習を深める一助とする。
- (3) 2年次の文理選択、および将来を見据えた適切な学部・学科選択をするための情報収集の機会とする。

2 実施日時 令和7年10月9日(木) 4～6時限

3 対象生徒 1年生 237名

4 実施会場 本館4階各教室

5 実施形態 対面授業(90分×2講座)

6 会場・講座内容等

	講義名	講師名	所属
1	「できない」を「できる」に変える作業療法 -子どもの事例を通して-	教授 大島隆一郎先生	茨城県立医療大学 作業療法学科
2	日本と英米の核文学入門	准教授 齋藤 一先生	筑波大学 比較文化学類
3	植物ウイルス病の不思議	教授 磯貝 雅道先生	岩手大学 農学部 食料農学科農学コース
4	ランニングシューズの常識を変えたのは、炭素繊維複合材料だった！	教授 高橋 辰宏先生	山形大学 工学部 高分子・有機材料工学科
5	市場とは何か：経済学の考え方	教授 柳澤 哲哉先生	埼玉大学 経済学部
6	フォレンジックについて-人文科学・社会科学・情報学の交わる場所-	准教授 平田 和久先生	群馬大学 情報学部
7	乳幼児期の子どもの姿と保育者の技 —面白さ、奥深さ—	准教授 保木井 啓史先生	福島大学 人間発達心理学類 心理学・幼児教育コース

II 実施状況

10月9日(木)「紫西プレカレッジ」と題して、山形大学・岩手大学・福島大学・埼玉大学・群馬大学・筑波大学・茨城県立医療大学、以上7大学の先生方を講師にお迎えし、90分×2コマの模擬授業を実施しました。

生徒からは、

「前よりとても大学が楽しみになった。自分が学びたい内容をしっかりと定めて、学部や学類をしっかりと調べて決めないといけないと思った。」

「理系の勉強は苦手だから正直進みたくないと思っていたが、困っている人を救うためだと考えたら、頑張れそうだった。努力なしではなにもできないとわかった。」

「大学の様子や学部などについての話を聞いて自分のやりたいことをやるためにはどのような学部に入ると良いのかが明確に分かった気がしました。」

「2人の講師の方がどちらもその学問にとっても真剣に向き合っていて私もそうありたいと思った。」

「初めて見る学部だったが、講義を受けると興味が湧き進路の選択の幅が広がったような感じがした。やはり経験すると選択の幅が広がって行くことがわかった。」

「なんとなくしか知らなかった学科について、この仕事との関係があったことが分かり、という新しい視点・考えを知ることができました。」

などの感想が寄せられました。

1年次はいよいよ文理選択の本決定に向かいます。自分の進路について、調べ、考えたことを想起し、自分にとって良い選択とは何かを改めて考える、貴重な機会となりました。

【当日の様子】



② 園児・学童の生活支援・学習支援ボランティア活動

1 活動報告

回数	期日	日数	場所	参加生徒 (のべ人数)	内容
第1回	7/23	1日間	五郎助山	10名	虫取り
第2回	7/24～8/8	12日間	川島保育園	30名 (91名)	学童の支援
第3回	9/29-30	2日間	川島保育園 川島こども園 筑子保育園	42名	園児の支援
第4回	10/27	1日間	川島保育園 川島こども園 筑子保育園	28名	園児の支援
第5回	11/13	1日間	川島保育園	33名	お祭りごっこの 補助
第6回	12/24～26 1/5～1/7	6日間	川島保育園 川島こども園 筑子保育園	21人 (34名)	学童の支援

※ 全6回実施。のべ日数23日間、参加生徒合計93人(3年生8名、2年生41名、1年生44名)。のべ参加生徒238人。

2 活動の様子

・第1回「ボランティア」(川でザリガニ、山でカブトムシ)



・第2回「ボランティア」(畑で野菜を収穫・スイカ割り)



・第3回「ボランティア」(工作サポート・給食補助)



・第4回「ボランティア」(芋ほり、遊びの補助)



・第5回「ボランティア」(お祭り補助・サッカー教室)



・第6回「ボランティア」(おやつをいただきました)



3 生徒の声

- ① 園児の視点(目線の高さや月齢の成長度合い)で考えることの大変さを学んだ。
- ② 私は妹や弟がいないため、小さい子どもと関わる機会がほとんどなく自分が子どもたちと遊ぶ姿をうまく想像することができず不安でしたが、園児の元気なあいさつと笑顔でその不安は一瞬で取り除かれました。
- ③ 小さい子に、説明する難しさを感じました。同時に保育園の先生のすごさを感じた。
- ④ 私が中学生のときの職場体験(保育実習)はコロナの影響もあり、行けずに終わり心残りだったので、今日はとても楽しかったです。湿度も気温も高かったので、水分補給のときに水筒をとりやすいように気配りをしました。また、休憩中にポケモンの水筒を持っている子を見かけたので話しかけたら、周りの子たちも集まってきてたくさん喋りました。好きなもので会話を弾ませて園児とも交流の糸口にもなって感動しました。少し疲れてしまった子には膝の上に座らせてお話をしました。
- ⑤ 子どもたちは生き生きと楽しそうに遊んでくれて、その様子を見て温かい気持ちになりました。特にうれしかったことは、冷やしキュウリを食べているときに子どもたちが集まってきて「俺、トマト食べられるよ!」「私はナス食べられるよ!」と自慢大会が始まり、子どもたちに囲まれて話をしているうちに、自然と距離が縮まってきたことを感じました。

- ⑥ ボランティアを通して、自分にとっての課題も見つかりましたが、それ以上に大きな自信を得ることができました。準備段階では不安が大きかったものの、前向きな気持ちを持てるようになりました。この経験を糧に次のボランティア活動でもさらに子どもたちとの関わりを深め、「人気者リーダー」を目指して頑張りたいと思います。
- ⑦ 園児たちと一緒に体を動かすことができ、自分も成長することができました。園児が笑顔になっていると私たちもうれしかったです。元気をもらえました。
- ⑧ 是非、次も参加したいと思います。

4 園の先生からの声（一部抜粋）

あまり運動が好きではない子が真剣な表情で取り組んでいたりと、人見知りの子がお兄さんお姉さんとのふれあいで笑顔になっていたり、保育士も、子どもたちの新たな一面が見られたと、とても喜んでいました。高校生のお兄さんお姉さんが子どもたちにやさしく話しかけてくれる姿や優しい笑顔に、心温まるものがありました。感謝です。

是非、またご指導頂けたら嬉しく思います。よろしくお願い致します。

5 今後へ向けて

この活動は、「学童・園児の生活支援・学習支援ボランティア」の名の下、小さい子どもたちの生活支援・学習支援を通して多くの子どもたちと接したり、現場の保育士の仕事を体験したり、貴重な体験をさせていただきました。

学童・園児たちは年の近いお兄さん・お姉さんが来てくれたことで、いつもの遊び・学習がより充実していました。高校生と一緒に遊んだり、学習したりすることで、ハードルが下がりいつもより積極的にチャレンジする姿が見られたり、普段とは違う子どもの側面が発見されたりしました（園の先生からの感想から）。

高校生にとっても、学童・園児と触れ合うことでたくさんの学びを得ることができました。一人一人に対する接し方・話し方・目線の高さなど、どうコミュニケーションをとるのか。また、安全性・公平性にも配慮しました。さらに、現場の先生の声掛け・行動をリアルタイムで見られたことは机上では得られない学びでした。将来、保育士や小学校の先生として働きたい生徒にとっても、進路に悩んでいる生徒にとっても進路実現の一助になっています（参加した高校生の感想から）。

最後に、この活動は「生徒を前向きな気持ちにする力がある」ことがわかりました。多くの生徒が、「1日子どもたちに囲まれて、元気をもらった」・「また参加したい」という声が多くありました。

以上のように、この活動は、生徒の進路実現の一助になったり、自分の在り方・生き方を考え直したり、普段では得られない多くの学びを得たりすることができました。

今後は、「地域交流・地域支援・地域貢献」をキーワードに、異年齢交流と地域コミュニティの活性化を図るために、本事業を維持・継続、さらに発展させていければと思います。

巻末特別記事

スペシャルインタビュー

探究活動が拓く、未来への扉

—— 自らの「好き」を、社会とつなげる実体験へ

探究活動での経験を自らの進路へとつなげ、志望校合格をつかみ取った新井さんと大島さん。お二人の歩みをたどると、下館一高での探究が「将来の自分」を具体化していくプロセスそのものだったことが見えてきます。



大島さん

下館一高を選んだ理由と、入学して感じたこと

新井さん：親戚が通っていたこともあり、文武両道を大切にしながら、充実した学校生活を送れる点に惹かれました。特にダンス部に憧れて入学しましたが、初心者でも仲間と一緒に楽しみながら、想像以上に多くの経験ができました。行事も本当に楽しく、学校全体の雰囲気の良さを実感しました。

大島さん：私も従姉妹から学校の評判を聞いており、ダンス部で目標に向かって活動したいという思いがありました。入学後は、新しいものに出会える環境だと感じました。最初から「探究」をやりたいと思っていたわけではありませんが、進路と向き合う中で、学校が挑戦を後押ししてくれる環境があると気づき、さまざまなことに挑戦できました。

探究の核心：「Let's インターン ～高校生による教育実習～」

二人に共通していたのは、「教員になりたい」という夢でした。その思いが具体的な行動へと変わり始めたのが、高校1年生の3月に参加した茨城大学の高校生公開講座でした。

大島さん：教育をテーマに探究に取り組む中で、「探究で模擬教育実習をしたい」と考えるようになりました。そこで大学の教授に直接相談し、笠間市内の小学校で実習の機会を実現しました。教員の立場で学校に入ったことで、座学だけでは学べない授業づくりの工夫や、子どもとの関わり方を現場の視点から学べたことが大きな収穫でした。この活動は、学校の「大学連携プロジェクト」への応募をきっかけに、私たち自身が大学教員へ協力をお願いしたことで形になったものです。高校生の一歩が周囲を動かし、「高校生による模擬教育実習」という挑戦へとつながりました。



新井さん

新井さん：私も小学生の頃から特別支援学校の先生になるのが夢で、探究テーマを教育に決めました。大島さんと同様に大学の教授にご協力いただき、小学校で模擬教育実習を行いました。さらに、通級指導室の授業に参加したことを通して「インクルーシブ教育」に出会いました。実習を重ねる中で、特別支援学校だけでなく、普通学級も含めて「誰もが学びたい場で学べる」環境づくりに関わる教員になりたいという、新しい目標が生まれました。

地域とつながる「ちくせいビアフェス」での挑戦

探究の舞台は、学校の外にも広がりました。二人は「ちくせいビアフェス」に運営側として関わり、社会と直接つながる経験を重ねました。

- ・社会人としてのマナーと責任感：複数企業との交渉を通して、情報伝達の正確さやビジネスマナーの重要性を実践的に学びました。
- ・主体的な企画運営：市役所にイベントの目的をプレゼンし、補助金獲得につなげました。また、地域の特産品の魅力を伝える企画として「カラダじゃんけん大会」も実施しました。
- ・経験の融合：「地域密着のために子どもにも目を向ける」という視点は、教育実習での学びが活かされたものです。探究で得た経験が別の場面で結びつく感覚を、二人は手応えとして語ってくれました。

探究が進路決定に与えた影響

新井さん：実習を通して、普通学級におけるインクルーシブ教育の必要性と重要性を実感しました。以前は特別支援学校を中心に考えていましたが、「誰もが共に学べる環境づくり」に関わる教員を目指したいという思いが強まりました。

大島さん：当初は教科教育分野での進学を考えていましたが、探究を通して「学校現場や教育そのものをより良くするにはどうすればよいか」を考えるようになり、教育実践の道を選びました。大学では、子どもたちの多様な個性に応じた指導力をさらに磨いていきたいです。

後輩たちへのメッセージ

大島さん：「自由な挑戦は、高校生の特権」
探究は、自由に何でもできるチャンスです。その挑戦を学校や地域、外部の方々が支えてくれるのは、高校生ならではの環境だと思います。ぜひ経験値を高める貴重な機会として活用してください。

新井さん：「探究は、自分の中に埋もれた宝物」
まだ見つかっていないだけで、みなさんの中には輝くものが必ずあります。真剣に取り組めば、きっとそれに出会えます。探究は、可能性を広げ、みなさん自身を成長させてくれるはずです。



あとがき

本報告書『館一探究プロGRESS ～共創する未来、地域から世界へ～』をご覧いただき、ありがとうございます。

一冊の報告書としてまとめた本年度の活動を振り返ると、そこには教室の中だけでは決して完結することのない、躍動感あふれる学びの軌跡があります。

「探究」というキーワードを軸に据えた本校の教育活動は、本年度、さらなる深化を遂げました。世界を視野に入れた国際理解、テクノロジーを味方につける科学教育、そして自己の未来を拓くキャリア教育。これらすべての活動において、生徒たちは「正解のない問い」に対して、粘り強く独自の解を導き出そうと試行錯誤を繰り返してきました。

特筆すべきは、これらの挑戦が決して孤立したものではなかったことです。地域の企業、行政、教育機関の皆様との「産官学連携」による伴走があったからこそ、生徒たちのアイデアは現実味を帯び、学びは「本物」へと昇華されました。地域の方々と共に汗を流し、専門家の視点に触れ、社会の構造を肌で感じる。こうした実社会との接点こそが、生徒たちの探究心に火を灯し、多面的な視点を養う最大の原動力となりました。

本活動を支えてくださった行政・企業の皆様、大学の先生方、そして温かく見守ってくださった保護者の皆様に、心より御礼申し上げます。皆様との「共創」があったからこそ、生徒は地域に学び、地域を起点に視野を広げる機会を得ることができました。

本報告書に記した取り組みは、まだ通過点に過ぎません。今年度得られた気づきやつながりをつなぐ問いへとつなげ、生徒の学びが継続的に深まる環境づくりを進めながら、本校の教育活動が今後さらに充実・発展していくことを願い、あとがきといたします。

令和8年3月

茨城県立下館第一高等学校